

太田川上流から太田川源流へ

—第5学年「源流の自然を感じる」—

柏木俊明

1 はじめに

今、様々な形で環境破壊が進んでいる。短期間にはっきりとした形で環境破壊が表面化してくるものもあれば、表面に表れず、長期間にわたって環境破壊が進んでいるものもある。いずれの場合にしても、人々や生物にとって、これまで通り生きていくことが大変難しい状況を作りつつある。そのために、こうした自然環境について関心をもち、自然や人々が、いかにかわり合いかを考えていくことは、大変重要なことである。

2 テーマについて

子ども達はこれまで、太田川を中心に環境を見つめる学習をしてきている。太田川は広島市の水源となっており、子ども達が生活する上で欠かせない存在である。その太田川を通して様々な体験をする。1年生では、学校の近くにある猿猴川。2年生では、その下流にあたる、元宇品。3、4年生では、太田川の上流での体験。それぞれが、これまで子ども達にとって大変心に残るものとなっており、子ども達は、体験を通して環境を見つめていこうとしてきた。

5年生では、太田川を体験してきた集大成として、太田川源流の水や自然を直接体験する。そこで、川の源流から下流への環境の様子やその自然について考え、さらに自分たちの生活に結びつけ、課題を発展させていこうとするのである。

3 単元について

5年生では「山の学習」という宿泊学習を行う。この「山の学習」の主な目的は、子ども達の生活を作ることである。それと同時に、「山の学習」を行う「もみの木森林公園」の場所は、太田川の源流に近く、周りの自然や水と直接かわりをもつことができる。川の源流だからきっと水はきれいだろうと、安易に考えるのではなく、本物を体験することによって、言葉で言い表せない部分まで感じるができることと考える。直接、自然とのかかわりをもつことで、様々な疑問が生まれ、自分たちの生活と関係づけて考えたりすることができる。

4 指導目標

- 太田川の源流の水や周囲の環境から、自分たちの生活とのつながりに関心をもつことができる。
- 太田川の水や環境に触れ、疑問をもち、環境と水とのつながりや自分たちの生活について、進んで考えようとする。

5 指導計画、指導内容と実践

(1) 指導計画

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①山の学習：源流の森探検スタート②どんな探検をしようか③冠山と太田川④山の学習：自然探検、「川と友だち」⑤源流探検を終えて |
|---|



もみの木森林公園周辺

(2) 実践

① 山の学習：源流の森探検スタート

宿泊学習の山の学習が始まると共に、宿泊場所である「もみの木森林公園」の位置を地図で確認し、さらにその周りの自然の様子について航空撮影された写真を提示した。そうすることで、「もみの木森林公園」の周囲の自然が緑で覆われていることに気づき、さらに大まかに自然の全体像をつかむことができた。全体像をつかむことで、探検をする際の方法や視点をもちやすくすることができる。

② どんな探検をしようか

自然とのかかわりをもつために、どんな方法や視点でかかわりをもちたいかを考えた。そうした子ども達のやりたいことをまとめていくと、主に次の4つのコースに分かれた。

i. 自然全体コース	ii. 石, 水コース
iii. 生き物コース	iv. 植物コース

自然全体コースでは、自転車を使って、もみの木森林公園全体を走り、森林公園全体の自然を捉えようとするものである。また、他のコースについては、自然の全体を感じながら、それぞれの視点で自然を特に観察していこうとするものである。それぞれのコースで、特にどんなことを見ておけばいいか、またどんな自然なのかについて、本やインターネットなどを用いて調べ活動を行った。

③ 冠山と太田川

「もみの木森林公園」の周りの自然については、コースごとに事前の調べを行ったので、特にその中で冠山に視点をあてて追究を行った。冠山は、自分たちの生活とつながりが深い、太田川の源流である。子ども達は、これまでの様々な体験で、太田川の上流に行くほど水がきれいであることを実感してきている。そのため、そのつながりである太田川の源流に対する水の様子については、追究の期待も大きい。冠山の源流で作られた自然の水を見たり、太田川の水が自分たちの飲み水となっていることを再認識したりして、源流の水に対する追究意欲を、一層深めることができるようにした。特に、その水を観察していくにあたり、水の透明さや臭い、味、水がどこから出てきているか、周りの様子はどうかなどに着目していくことにした。

④ 山の学習：自然探検、「川と友だち」

山の学習は3泊4日で行った。1日目に、予定されていたコースに分かれて、自然探検を行った。この探検には、吉和村の自然観察のインストラクターの方に来ていただき、自然を追究する上で、支援をしていただいた。このことで、写真で見る以上に「もみの木森林公園」の自然の全体像をつかむことができた。特に、川が緑の山々の谷間から流れ出てきていることに気がついたり、その水は岩の間から流れ出て集まってきていることに直接見ることができたりした。また、山を観察する中で、一部にはブナの木が存在し、広葉樹林で覆われている様子を観察することができた。山に入ってみると、周りの気温より随分涼しく、腐葉土で地面が覆われていることに気づき、さらに成長したブナの木の回りには小さいブナの木が、たくさん生えてきている様子も見ることができた。

2日目には、太田川の源流を直接探検するために、川を上流へと登っていく探検を行った。「もみの木森林公園」から少し離れた「魅惑の里」に場所を移し、行うこととした。ここでは、川に入るための服装に着替え、川を上流に向かって川のなかを歩いて上がる予定にしていた。1日目に引き続きインストラクターの方2名に来ていただき、上流へ上がっていくときの注意する点などを話していただいた。



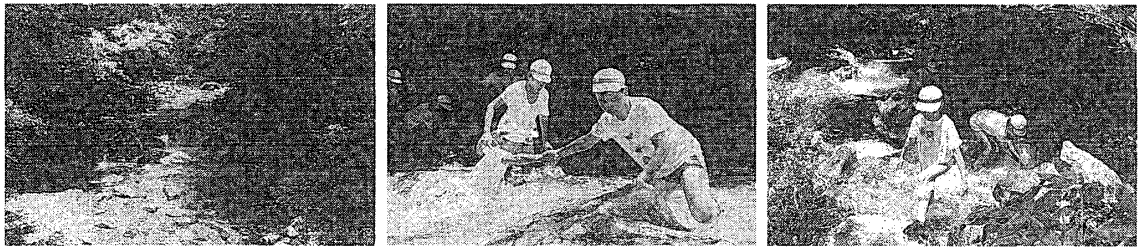
コースごとの探検の写真

川を上っていくときに、留意しなければいけない場所にはインストラクターの方に、先に指示を出してもらい、引率をした教師がその場所の安全を図る。そして、子ども達が上っていく様子を、見守ったり、支援したりしていくようにした。

また、川の水量について、事前にインストラクターの方が調べてくださっており、日頃の川の水量から、当日の川上りも、安全に行うことができるであろうと判断された。

7月の始めではあったが、川の水は冷たく、一部は腰まで浸かるところもあった。川の中に入ることによって、子ども達は、水温、水の透明さを感じることができた。また、所々にある川の深み、石や岩の表面の様子などを直に見て感じることもできた。特に、水の勢いが大変強い場所もあり、体でその強さを感じることができた。さらに、上流に上がっていくと、場所によって水が湧き出ているところもあり、水が岩の中からはみ出てくる様子も見ることができた。その湧き水は飲むこともできると聞き、早速飲む子どもも大勢いた。今までに、湧き水を飲んだ経験のある子どもは少なく、大変貴重な体験となった。

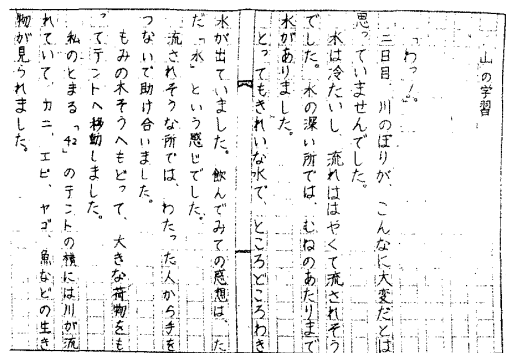
川も下がっていくにつれて、いろいろなところから他の小さい流れが入り込み、だんだん水の量が増えたり、川幅が広くなったりしていくことも見ることもできた。また、こうした川の中での直接体験で、水のきれいさが自分たちを、心まで解放してくれることを感じとっていたようである。



写真「川と友だち」

⑤ 源流探検を終えて

山の学習を終えて、太田川の源流について感じたことやさらに、疑問に思ったことなどを作文に書いた。これまでの、太田川の活動の終着点であるために、川の全体を見てこれたという充実感と、源流の自然の様子について、写真で見た以上にすばらしさを感じているようであった。この中で、川や自然について、一層興味や関心をもった子ども達は、自分タイムを利用しながらさらに追究していくこととした。



探検後の子どもの作文

6 おわりに

3, 4年生で太田川の上流で体験し、水がきれいだと感じたが、源流ではそれ以上に水がきれいだと感じ、そのきれいさを自分の体で確かめることができたことに、意義は大きい。自然を理屈だけで捉えることなく、実体験がともなった自然の良さに少し触れることができた。

そのために、この体験の発展を大切にしていかなければならない。今の自分自身の生活や他の場所との比較など、発展していく内容はたくさんあるように感じる。そうしたことへ、さらにどのように結びつけるかが、今後の課題である。